

思考力・判断力・表現力を育てるNIE教育

洲本市立安乎中学校 校長 中尾 浩二
教諭 樋口 貴彦

1. はじめに

NIE実践指定校として「思考力・判断力・表現力を育てるNIE教育」をテーマとして取り組んで2年目を迎える。昨年度の課題を踏まえ、家庭・地域との連携をより深めながら、地域に根差したNIE教育を推進してきた。学校を挙げて、総合的な学習の時間を中心に、朝の学習の時間、教科学習、学活の時間も有効に活用し実践を積み重ねてきた。2年目の取り組みを中心に活動を振り返る。

2. 新聞の設置場所および活用について

生徒たちの家庭の多くは、新聞を定期購読しているが、じっくりと内容を把握するまで読んでいる生徒は少ない。新聞社の協力のもと、提供していただける2紙について、いつでも、すぐに読めるように、各学年の教室前の多目的ホールに置くこととする。生徒数が少なく、床がカーペット状になっており、さらに窓際にベンチが設置されている好環境のため、比較的ゆったりと新聞が読める。



休み時間・昼休みなど、新聞をめくる生徒の姿が増えていった。

3. 実践の内容

① 朝の学活

朝の学習では、担当者が選んだ新聞記事を配布し、生徒たちに読ませた後、感想を書く時間を設け、自分の考えをまとめさせた。記事の選定にあたっては、偏りがないよう、また、同じような考えにならないような物を選ぶように注意した。

さらに、掲示板に、各意見を張り出し、他の人の考えも分かるように工夫した。帰りの学活で、記事についての説明や書かれていなかった関連事項についても補足説明をし、全体像がつかめるよう配慮した。

② 教科での取り組み

○理科：「自然と人間」の単元では、環境問題について取り上げ、地球温暖化や異常気象、地殻変動による地震・津波・火山の噴火、また、原子力発電所の再稼働の問題など、大きく取り上げられた記事について、「新聞ではど



のように報道されているか」を知らせるとともに、授業を行った。

○美術科：京都や大阪の美術館で催される企画展の関連写真が大きく取り上げられているのを機に、生徒たちの印象に残りやすい写真を活用し、興味付けを行うとともに作品紹介や、制作されたときの時代背景、画家の状況などについて学習した。

○体育科：プロ野球、高校野球、サッカー、テニス、陸上競技など、部活動として設置されていない種目を中心に、その種目の専門性や素晴らしい、また、トッププレーヤーの情熱や練習について触れ、生徒たちに、今の自分と比較させ、部活動に対する取り組みや練習方法について、考える機会とさせた。

○技術科：工業立国日本の歩んできた道、現在、歩もうとしている未来について、電気自動車や燃料電池で走る車、また自動運転のシステム作りなど、関連の記事を活用し、授業を行った。また、生徒たちが大人になった、20年後、30年後の社会についても考えを発表させた。

③ 外部講師による授業

○稻田騒動：本校のある洲本市は江戸時代、徳島藩の筆頭家老稻田氏が治めており、稻田氏は、家来の子弟を対象に私設の学問所を設け、教育に力を入れていた。その学問所「益習館」は最近たびたび、地方版で取り上げられた。これを機に、歴史に詳しい金田匡史氏を講師に招き、地域学習の一環として、郷土の歴史について学習した。



○岩戸川の生物：理科の授業で取り上げた環境問題について、さらに詳しく学習を深め、身近な物として捉えるために、淡路島で長年、自然保護指導員として活動している生嶋史朗氏を講師に招き、授業を行った。対象は1年生。フィールドワークで現地に出向き、普段は見過ごしてきた水生昆虫や、道端に咲く植物について説明を受けた。後日、さらに調べ学習で知ったことも併せて、各生徒がプレゼンにまとめ、グループごとに発表した。



○淡路瓦についての学習：地方版には、地域の名物や特産品についての記事が出ていることが多い。地場産業の一つである淡路瓦についても、本来の屋根瓦としての使い方の他に、最近はオブジェとして作られるなど、変わった使い方もされているようである。この記事を基に、ふるさとを知る学習の一環

として、淡路瓦の普及に長年携わってこられた竹澤英明氏に来ていただき、お話を伺った。淡路瓦は多孔質で吸水性に富んでいるため、急な大雨でも家を守る性質を持っているなど、興味深い内容で生徒たちも聞き入っていた。



○県立美術館学芸員による鑑賞の授業：美術の授業で行った展覧会についての学習で、作品や画家の情報にとどまらず、見せる側の美術館の学芸員遊免寛子氏による鑑賞、美術館の裏側の学習を行っていただいた。美術品の収蔵・展示・輸送など、新聞記事だけでは分からず詳しい事情が話され、興味を持って学習することができた。



○ JAXA 指導員による宇宙教室：技術科で日本のものづくり・技術開発、航空・宇宙産業について学習したことについて、JAXA 舟木政信氏をお招

きし、宇宙の話、宇宙ステーションの様子、そして人工衛星の開発話と、新聞や映像でしか知らない興味深い話をじっくり聞くことができた。



○記者派遣事業：12月、日本経済新聞神戸支社の長谷川岳志支局長に来ていただき、記者派遣事業をしてもらった。一人一人に一部ずつ新聞が渡され、ユーモアにあふれるテンポの良い口調で授業は展開された。「この記事はどこに載っているでしょうか」というクイズ形式で進められ、楽しみながら新聞紙面の構成を知り、改めて新聞を作ることに気づかされた。



④ 壁新聞の製作

記者派遣事業や昨年度の新聞社の見学を踏まえ、本年度も各学年で壁新聞を制作する。テーマは次の通りである。

1年：淡路について調べよう

2年：神戸を紹介しよう

3年：私たちの見た東京



新聞を作るにあたっては、表題の付け方、記事の割り付け、読者の読みやすさなど再確認をしながら事前指導を行った。目を引くタイトルの付け方や文字の大きさ、簡潔で分かりやすい文章、視覚に訴える写真やイラストと、悪戦苦闘しながらも真剣に取り組んでいた。新聞という手法を通じて、何かを伝える大変さを実感したとの感想が多く聞かれた。



出来上がった壁新聞は廊下・多目的ホールに掲示し、他学年の新聞をお互いに見る中で情報の共有ができた。また、オープンスクール、学校行事などで来校する方々にも見ていただいた。さらに1、2年生は、発表する力を培うために発表会を計画し、説明するためのプレゼンテーション作りにも取り組んだ。

指導してくださった方や地域の方、保護者に来ていただき、取り組みや成果を発表することができた。



4. おわりに

2年間、NIE実践指定校として取り組んできたことについて振り返る。「教育に新聞を」とは言うものの、目標とすべきテーマを何にするか、どのような形で生徒たちに新聞の持つ有効性や可能性を伝えるか、また具体的にどう活動・実践していくか、組織的に取り組んではいるものの、1年目は試行錯誤の連続であった。取り上げる記事に偏りがないよう配慮しながら、街角の「YES・NO」アンケートの手法を使い提示すると、生徒たちは高い関心を示すようになった。ここから次々と新しい切り口を示した結果、生徒たちの「分からぬ、知りたい」という知的好奇心を刺激し、「知ることの面白さや喜び」を少しでも感じ取らせることができたのではないかと考えている。東京大学の総長が入学式の式辞で、新入生に対して、「新聞の見出しだけではなく、本文もきちんと読む習慣を身に付けよう」と呼び掛ける時代である。我々は、毎日欠かさず食事を取るのと同じように、知のエネルギーの供給源である新聞を読む習慣も同時に身に付けさせたいと考えている。